



竹の子川柳会

おやつでねケーキがでるよううれしいな
小二 優

ドラえもんどこでもドアの出口どこ
小二 隆希

休みの日紙に可愛いいくまかくよ
小二 心香

おりがみでひこうきおつてとばすんだ
小三 勇斗

おり紙でハートを作る楽しいな
小三 みるく

テスト前紙にかいたよ苦手な字
小四 心春

思いこめ紙飛行機を飛ばすばく
小五 翔太

運拾うごみを集めるこつこつと
小五 太清

うれしさと感謝で満ちた誕生日
中二 清也

ゴミひろいびかぴかな町めざそうよ
中三 海士

ゴミ拾い寒さ息吹く通学路
中三 海斗

宿題の出口がやっと見えてきた
高一 ななみ

うれしいと素直に言えばいいのにな
高三 瑠依

バイバイと笑顔振り向き出口でる
高三 ちひろ

ひよし川柳会

汗野良着元気晩酌無事の幸
熊本 忠真

我が物と思えば軽い皮下脂肪
渡辺 光男

女三人噂の種を知りたがる
兵頭チヨカ

カタカナの記事は曖昧流し読み
山本 雅之

初孫に祖父母の会話カタカナ語
若宮 賢敬

若い気で餅食ベすぎて胃がなやむ
菅原 由紀

漢字より肩で風切るカタカナ語
川添 忠昭

杵の音響かぬ里の年の暮れ
水野すみこ

よく寝たなあ猫も一緒に欠伸する
中城 英雄

寝たきりにならないようにウオーキング
山本 節

寝正月だけじゃつまらん酒や匂や
木村 貞子

寝る暇も無いのか知事のやつれ顔
大崎 五葉

スカートが体重増をしらせてる
伊勢本 恵

杵でつく餅を知らない子が増える
兵頭 好子

鬼北の足跡をたどる



解説・等妙寺縁起と鬼北の「おに」伝説⑥

等妙寺開基700年を記念し、今年度の「鬼北の足跡を辿る」では等妙寺縁起と鬼北の「おに」伝説について取り上げました。前回までに記したように伝説上の人物、鬼王・段三郎は屈強な大男で、怪力の持ち主と伝わります。一方で、等妙寺縁起では「曾我兄弟」は奈良山に棲む亡霊・化身として描かれ、「鬼王・段三郎」は老人の姿で登場し、等妙寺は曾我兄弟の菩提を弔う寺として建てられたと伝えます。これらの伝承を読み解けば、「曾我兄弟」は奈良山の神（地主神）で、「鬼王・段三郎」は山の神の従者・御使い（おに）であり、それらを祀るために等妙寺を建立した、という構図が浮かび上がってきます。

等妙寺縁起は中世等妙寺廃絶後、近世初期に成立したと考えられるものです。書かれていることはあくまで説話であり、史実との混同がみられますが、伝承の根底には鬼北の「おに」、つまり祖先の霊・山の神の信仰が垣間見え、先人たちの心の拠り所として、あるいは祈りの対象として今日まで語り継がれてきたことは事実といえるでしょう。

昨今、人々の記憶から衰滅しつつある地域の歴史や文化に目を向けることは、地域の魅力の再発見に繋がります。それを現代社会にいかにか活かすか思考することが重要で、今後のまちづくりの出発点になります。地域の財産・宝であり、鬼北の「おに」と密接に関わる等妙寺旧境内が地域住民で考え、護り、未来へと継承できるとする愛される史跡になることを切に願ひ、今後も史跡の保護・活用事業に邁進していきます。



▲等妙寺旧境内智光院跡からの景色